

走る・繋がる マラソンを通じた国際交流

下関市総合政策部国際課

主任主事 和木田 真功

国際色豊かに！外国人選手も活躍する海響マラソン

毎年11月に下関市で行われる海響マラソンでは、友好関係にある海外の都市から選手を招待し、大会を盛り上げて頂いています。昨年、中国は青島市と大連市、韓国は釜山広域市、蔚山広域市と光陽市から参加があり、特に初参加となる大連市の招待選手は5キロの部に出場し、見事優勝しました。参加した選手からは海響マラソンの温かな「おもてなし」に対して感動したとの感想を聞くことができました。

下関選手団も大連へ！初参加となる大連国際マラソン

昨年初めて海響マラソンに参加した大連市から、今年5月に行われた大連国際マラソンに初めて招待を受け参加しました。下関選手団は昨年の海響マラソンで優秀な成績を収めた下関市民の3名で構成され、私も引率として参加しました。なお、日本からは北九州市、金沢市を含めた3都市が招待を受け参加していました。

【下関選手団】

- ・保井 貴史 氏
- ・豊永 哲央 氏
- ・中島 みなみ 氏

「ふく」走る！駆け抜けた10キロ

私も10キロの部にエントリーしマラソンを体験しました。もちろんただ走るわけではなく、下関のシンボル「ふく」の帽子と観光法被を着て、下関をPRしながら走ってきました。日本のマラソンではいわゆる「コスプレ」をして走る方も多く

目にしますが、中国ではあまり一般的ではないのか、大半の人は大会のTシャツを着て走っており、非常に注目を集める結果となりました。沿道で応援してくれている方と笑顔でハイタッチをしながら走ろうと努めた結果、走り終えた後は足よりも肩が筋肉痛になっていましたが、多くの方から声をかけられたり、写真撮影を求められたりと、いいPRになったと実感しています。

気になる下関選手団の成績は？

ここ数年ケニア勢が成績上位を占めている大連マラソンですが、下関選手団も健闘しました。スタート位置に恵まれず、後方スタートという悪条件の中、選手は26位、27位と奮闘、そして中島選手が日本人唯一となる8位入賞を果たしました。中島選手は「後半ペースダウンしてしまったがまさか8位入賞できるとは。」と驚いていました。また選手たちからも、「また機会があれば参加したい。」など前向きな言葉が聞け、マラソンを通じて草の根交流の促進や中国に対する理解を深めるよい機会になったと思います。



▲本市を訪れた青島市・大連市選手団



▲ふく帽子と観光法被を着て下関をPR

